

「自己評価表」＜校務分掌各部ごと＞

教 務 部

1. 目標

- (1)円滑な校務の運営を図る。
- (2)行事の精選と見直しを図り、より効果的に実施する。
- (3)各部との連携を密にする。

2. 重点目標及び評価

重点目標	具 体 策	評価	評 価 の 観 点	評 価 の 反 省 と 改 善 等	
				反 省	改 善
1	① 夕夜間定時制の円滑な導入と実施に努める。	① 年間行事の精選と各係との調整に努める。	B	授業時間の確保を図ることができたか。行事を精選する事ができたか。	非常勤講師の勤務日に学校行事を当てないよう配慮した。昨年度の反省を活かして各曜日に均等に行事等を割当てたが祝日が月曜日に集中したため十分ではなかった。
		② 曜日毎の実授業日数を把握する。授業時間の確保に努める。	B	各学期における定期試験間の授業時間の確保が図れたか。	各行事をLHRや総学だけで実施するのではなくその他の曜日に分散して対応した。しかし祝日が集中した月曜日の授業時間の十分な確保をすることができなかった
2	学校評価を実施するための準備に努める。	① 校務運営の実態に即した学校評価項目を設定する。	B	各分掌担当の自己評価に基づき、新たな具体策と評価がなされているか。	保護者アンケートの回収率は昨年度よりも増加した。回答内容は学校に対して肯定的で学校に寄せる期待感が感じられるものが多かった。
		② 学校評価を実施し、教育活動の改善に活かす。	B	保護者からのアンケート回収率が昨年度を上回ったか	保護者アンケートの回収率をもっと良くするために更なる方策が必要である。生徒対象のアンケート回収率は100%に近く真剣な回答内容であった。
総括	概ね良好な授業時間の確保をすることができた。次年度は各行事の実施についての曜日の均等な配分について、各部・各係と連絡を密にして調整していきたい。そして本年度より普通科夕夜間定時制への移行は、常に課題点や問題点の洗い出しや改善策を協議、実行し概ね順調な滑り出しであったと言える来年度以降もそれぞれの教職員が常に問題意識を持ち、忌憚のない意見を述べる事が求められよう。				

1. 目標

- (1) 基礎、基本を重視した授業展開をする。
- (2) 生徒の実態に即したわかる授業を実施する。
- (3) 教員相互の評価と指導力の向上を図る。

2. 重点目標及び評価

重点目標		具 体 策		評価	評価の観点	評価の反省と改善等	
						反省	改善
1	分かる授業を通して、生徒の学習意欲の向上に努める。	①	定期試験等の結果を分析、検討し、指導内容や方法の改善に努める。	B	迅速な成績処理と、結果の客観的な分析。その結果を指導内容、方法にフィードバックすることができたか。	データの一括管理や結果分析と、HR 指導の資料としての活用が充分とは言えなかった。	入力されたデータを活用できるよう、連携を図る。
		②	教員相互の評価と、指導力の向上を図る。	B	担当教科目を越えた授業見学を通して、自身の授業を振り返り、指導法の改善、向上に生かすことができたか。	コロナの影響で実施できるか不安もあったが、6月に実施することができた。	次年度以降、授業見学を充実できるように、時期、実施内容を検討する。
2	必要に応じ個別指導を実施する。	①	基礎基本を重視した授業を展開する。	B	学習上の困難さを抱える生徒に対し、それぞれに応じた指導の工夫が具体的にないか。	1・2学期連続して評点29点以下の評価を受けた科目のある生徒がいなかった。	補習等、学習上の困難さを抱える生徒に対する指導の充実を図る。
		②	事例研究会や各担任との情報交換を通し、個々の生徒の実態把握に努め、情報の共有を図る。	B	得られた情報を、実際に授業展開の場面で生かすことができたか。	情報の共有から授業展開へという流れがスムーズにいかなかった。	生徒指導部との連携により、得られた情報を授業展開に生かす取り組みの充実を図る。
総括	学習指導については、今年度の目標である各項目を概ね達成することができた。次年度以降、普通科、夕夜間定時制課程、自校三修制の実質的な開始に伴う、生徒の成績データや欠課時数の管理に、混乱やミスが生じないよう準備し、効果的な運用を図りたい。						

1. 目標

- (1) 基本的な生活習慣の確立を図る。
- (2) 規範意識の向上を図る。
- (3) 生徒自ら、健康管理を行う態度・習慣を身につけさせる。

2. 重点目標及び評価

重点目標		具 体 策	評価	評 価 の 観 点	評 価 の 反 省 と 改 善 等	
					反 省	改 善
1	生徒が安心して学校生活を送れるようにする。	① 生徒が安心して学べる環境を整える。 ② 問題行動の発生防止と件数の減少に努める。	B	校内外巡回、安全点検を行い、事件事故の未然防止に努められたか。 個人面談の実施や、スクールカウンセラー等を有効に活用することができたか。	安全点検・校外巡視等を通年で実施した。不審者情報が数件あった。 様々な障害傾向の生徒の対応に苦慮したが、いじめや交通事故等発生しなかったが、健康・安全管理の意識が低い生徒がいた。	点検・巡視を継続し、事故等の未然防止に努める。 障害傾向の生徒の生活上の諸問題を共有し同一の対応を行う。 SCや外部関係機関との連携を密にして、早期の対応に努める。
2	生徒が自ら健康を意識して生活できるようにする。	学校医や学校薬剤師の助言をもとに感染症予防に向けた校内の環境整備を行う。	B	生徒1人1人が積極的に感染症予防に努めることができたか。	新型コロナに振り回された1年になってしまったが、新しい生活様式などに沿った感染症対策を定着させる事ができた。	学校だけでなく各家庭でも引き続き感染症対策を行って頂けるよう働きかけを行う。
3	給食を通して基本的な食習慣を身につける。	食事マナーや食に関する知識を意識させた掲示物やHPの活用にも努める	B	食に関するアンケートの実施(各学期1回)	1学期のみアンケート実施。その結果を踏まえその後の献立作成に生かすことができた。	次年度は計画的に年3回(学期に1回)実施できるように努める。
総括	次年度も生徒個々に目を向け、生徒が社会に於いて自らの安全と健康な生活確立できる能力の育成を目指して、保護者の方々と足並みをそろえて、真摯に生徒指導を行う。地域から愛され、信頼され、応援していただける学校づくりに努める。					

特別活動部

1. 目標

- (1) 集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
- (2) 社会の一員としての自覚や生活態度などを育成する。
- (3) 特別活動を通して、コミュニケーション能力や協調性などを向上させる。

2. 重点目標及び評価

重点目標		具 体 策		評価	評 価 の 観 点	評 価 の 反 省 と 改 善 等	
						反 省	改 善
1	学校行事への参加及び生徒の社会性の向上。	①	学校行事への参加を促す。	B	校内行事、校外行事に出席できたか。	新型コロナウイルスの影響により、休校や特別活動に制限がかかる中、できる限りの対策を立てながら実施できた。	行事の際に欠席してしまう生徒が一定数いるため、学校行事の意義を理解させ、行事に参加することへの不安を取り除くことを心掛けたい。
		②	生徒相互の親睦を深めるため、生徒会行事の内容の深化・精選。	B	校外学習・定通総体・華陵祭などの行事を通して親睦を深められたか。		
2	生徒会による企画運営と、多くの生徒が活躍できる環境を作る。	①	生徒会活動などを協力して企画運営させる。	B	生徒総会、月光球技大会、予餞会等の行事を協力して運営できたか。	生徒会役員を中心に各行事での役割分担を通じて、協力して行事運営をすることができた。また、生徒の要望も取り入れつつ実施できた。	行事の実施時期や実施内容の検討が必要。 今年度実施できなかった行事も多く、来年度の実施についても柔軟に対応したい。
		②	生徒主体での実践と、役割への責任を意識させる。	B	新入生歓迎会、華陵祭等を生徒主体で実践できたか。		
総括	今年度は新型肺炎の蔓延により、臨時休校や行事の制限等、多くの制約があり、予定した通りの実施には至らなかった。行事の実施についても、感染症対策に多くの検討時間を要した。来年度についても同様の状況が予想されるため、社会的な状況を注視しつつ可能な限り生徒の活動時間を確保したい。						

1. 目標

- (1) 自らの将来の在り方や生き方について、自覚を促す。
- (2) 自主的に自己の進路を選択し、決定ができるようにさせる。
- (3) 自己の適性に合った就業を目指させる。

2. 重点目標及び評価

重点目標		具 体 策		評価	評 価 の 観 点	評 価 の 反 省 と 改 善 等	
						反 省	改 善
1	自らの将来の生き方や在り方について、自覚を促す。	①	進路ガイダンス等を通して、自らの生き方を考える。	B	進路ガイダンス後のアンケートや感想文等から自分の将来を考える機会となったか。	進学については早期に実現できた。就職に対する取り組みは適切であったが、7名中2名の内定を得た。3月までに全員の就職を決めたい。	各種検診等の未実施による就職試験への取り組みが遅れた生徒がいたので、検診の意義を理解させ、スムーズな就職試験に取り組ませたい。
		②	定時制の意義を考えさせ就業の推進に努める。	B	定時制の意義を考えさせ、就業の指導ができたか。		
2	自己の適性にあった職業を目指すさせる。	①	個別面談や進路希望調査で実態を把握する。	B	個別面談や進路希望調査を実施し、生徒の実態を把握できたか。	学期毎の担任による個人面談や進路希望調査の実施により、生徒の実態把握は概ね出来た。3年次の総合的な学習の時間では担任に頼ってしまうことが多かった。	担任だけではなく、キャリア教育部による声かけや教頭面談の複数回実施などの実施により、多面的な角度から進路指導をし、生徒の引き出しを増やしていきたい。
		②	キャリア教育の年間指導計画を作成し、計画的に指導や助言を行う。	B	一人一人の適性を生かした計画的な指導や助言がなされたか。		
9月中旬からの就職試験に挑戦し正規社員として採用される生徒が2名出た。今年度は、外部講師による校内進路ガイダンスを複数回実施したが、生徒の意識改革や自己啓発を促すような効率的なキャリア学習が確立されたとは言えない。進学については今年度はいい。ただし、進学情報についてもしっかりと情報の収集と分析に努め進路指導に生かしていけるように準備する。一月末現在、7名中2名の生徒が正社員での採用を勝ち取り進路が確定した。後5名については、2名が現在就職試験中である。3名が受験(就職)先を探している。 来年度以降、就職率、進学率をさらに高めていくための課題としては、3年次以外の学年が、進路の時間を充分確保できていないので、確保するように努めたい。							

1. 目標

- (1) 商業教育の基礎 基本を理解させる。
- (2) 資格取得に意欲を持たせる。
- (3) 学習に取り組む態度を育成する。

2. 重点目標及び評価

重点目標		具 体 策		評価	評 価 の 観 点	評 価 の 反 省 と 改 善 等	
						反 省	改 善
1	資格取得に対する意欲を持たせて、受験させる。	①	資格取得に向けた、計画的で組織的な指導を充実し、合格させる。	B	年間を通した、計画的な指導を行えたか。	各教科担当の指導により、資格取得への支援が概ね実施できた。資格取得に関して興味・関心を示す生徒が見られるようになった。	生徒の各種検定目標を個々に計画して、授業進度にあわせて支援できるようにする。
		②	各種検定試験の取得状況について学期毎に確認する。	B	各種検定の取得状況より上級の資格受験できたか。		
2	商業教育を通して、生涯学習の観点からも学習に取り組む態度を育成する。	①	商業科の教員間の共通理解を図り、学習指導へと繋げる。	B	段階的な理解度を把握し、学習指導へと繋げることが確認できたか。	商業科としての専門知識や技能を理解し習得する活動を今後も継続して実施する。 各年次の授業進度等の共通理解に努め、社会に必要なスキルを科全体で指導した。	知識や技術の習得だけではなく、自分自身に自信を持ち、高校生活を充実してもらうことが今後の社会生活の基盤になると考える。その態度を育成する活動を継続する。
		②	専門知識や技能を身につけ、より高度な資格等を取得するための意欲と態度を育成する。	B	専門的な知識や技能を習得するため、学習に取り組む意欲や態度が確認できたか。		
総括		本年度は、おもに珠算電卓検定試験を受験させ検定に対する意識が高められた。来年度からは、各種検定試験の不合格、欠席生徒の事後指導に力を入れていきたい。 今後は普通科におけるキャリア教育に向けた準備を進めていく。					